

委託事業実施内容報告書
平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：公益社団法人 国際日本語普及協会

1. 事業の概要

事業名称	難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援及び難民への日本語教育への理解促進事業
事業の目的	難民問題が世界を揺るがしている現在、日本にとっても難民を今後どう受け入れるかは喫緊の課題である。難民が日本社会で自立し安全で健康的な暮らしを成立していくために、日本語支援がどうあるべきかという問題は、いまだ社会で十分に議論され共有されているとはいえない。AJALTの日本語講師はインドシナ難民受け入れの時代から今日まで約37年にわたって難民事業本部の運営の下、難民への日本語教育を実践し、また地域や企業においても教育・支援を行うなど幅広く活動してきた。難民への日本語教育は今日、地域で求められている「生活者としての外国人」のための日本語教育そのものといえるが、加えて実践にあたっては難民という特殊性に対する理解も必要である。また、多くの地域の教室がそうであるように、多文化、多言語、レベル差などに対応した教室運営が求められる。さらに今後の難民をはじめとする定住外国人支援の方向性としては、難民たち自身の自助の力を下支えし、架け橋となる人材を育てていくことも重要な課題である。本事業では「難民への日本語教育・支援」について、その基本的な考え方、方法、教材等について、支援者の理解の輪を拡げ、当事者支援者を含め層を厚くしていくことを第一の目的とするともに、学習機会と場を切望する多くの難民とその家族、人道的配慮により在留を認められた人々に向けた日本語教室を昨年に引き続き実施する。この日本語教室をモデル教室として運営し、実践の場に支援者が参加する機会を提供する。モデル教室が学習者、支援者双方にとって良い学びと交流の場となり、結果として①学習者にとっては日本語力の向上、社会参加の促進、②支援者にとっては難民への日本語教育への理解促進、自らの実践に向けた動機づけとなることを目指す。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	定住難民に対しては、国の難民施策として572時間(1時間=45分)の初期集中日本語教育の機会が保障されてきた。しかし、諸事情により全ての難民が定住支援施設での学習機会に浴しているわけではなく、学習機会を切望する難民およびその家族は多い。そのうえ、難民認定には至らず、人道的配慮により在留を認められた人はこの学習機会を得ることもできない。また国の初期集中研修を終えた人の中でも、継続学習を必要とし希望する人も多い。難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた人々に対して、日本語学習の機会は、当事者の立場から見るとまだ十分であるとはいえない現状がある。他方、定住難民(インドシナ難民、条約難民および第三国定住難民)の存在は日本人の間で十分に認知されているとはいえず、まして難民への日本語教育の必要性和内容については日本語教育関係者の中にあっても理解されているとはいいがたい。また、地域日本語教育に関しては多くがボランティアに任されている現状があるが、学習者が集まらない、ニーズ・国籍・年齢・日本語力等、学習者の多様性に対応することの難しさに悩む支援者の声も多く聞く。また難民を前にしてどう教えたらよいか戸惑う支援者もいる。一方、自ら日本語の壁と格闘しつつ日本社会の一員としての道を開拓していった先輩の難民や定住外国人の中には、同胞の日本語学習を支援またはそれを希望している人々が多く存在する。彼らの懸け橋としての力を磨くことにより、日本語支援もより充実した形になることは間違いない。私達が提案する難民という背景をもった人々に対する日本語教育は、相互尊重に基づいた「互いに学び合う」関係性を促進する。難民への日本語教育への理解を進めることは、難民はもとより地域在住の外国人を地域の仲間として暖かく受け入れる風土を生む契機ともなるだろう。まずは難民についての理解を深め、難民をはじめ、「生活者としての外国人」が暖かく日本社会に受け入れられる空気を醸成するような日本語教室を各地域で増やしていくこと、そのために貢献する人材を当事者も含め、増やしていくことが課題と考える。
これまで日本語教育が行われていない市区町村の状況	
事業内容の概要	①難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた人を主たる対象にする日本語教室の開催 前年度までの継続参加者および新規参加者を対象とした日本語教室を継続実施した。この教室を「難民を中心とした生活者としての外国人のためのモデル教室」として実施、運営した。 ②難民に対する日本語教育への理解を促進するための支援者研修の実施 前年度に引き続き「難民への日本語教育」について、その基本的な考え方、留意点、レベル差への対応、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容及教養のヒント、教材作成の方法等について、支援者研修を行った。日本語教育のノウハウを提供するだけでなく、当事者である難民による講義や事例紹介、ディスカッションを通じ、日本が難民を受け入れることの意味、難民と共に生きることを意味を参加者と共に考えていけるような未来志向の双方向的支援者研修とした。各地で難民への日本語教育を実施する人に参加を呼び掛けた。難民・定住外国人で同胞への支援を希望または実践している人々にも呼びかけ、架け橋としての人材育成の場とした。①の教室の授業を支援者が見学したり参加できるように工夫した。
事業の実施期間	平成30年5月～平成31年3月(11か月間)

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	伊藤 寛了	公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部 企画調整課 管理係長
2	石上 和敬	浄土真宗本願寺派光明寺 住職 武蔵野大学教養教育部 教授
3	小門 謙	港区国際交流協会 事務局長・常務理事
4	岩瀬 香奈子	株式会社アールシャ 代表取締役
5	名取昭子	港区 産業・地域振興支援部 地域振興課 国際化推進係係長
6	関口 明子	公益社団法人国際日本語普及協会 理事長
7	小瀧 雅子	公益社団法人国際日本語普及協会 常務理事
8	樋口 博	公益社団法人国際日本語普及協会 日本語授業部担当部長
9	小形 真佐子	公益社団法人国際日本語普及協会 研修事業部担当部長



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年5月8日(火) 18:30~21:30	3時間	公益社団法人 国際日本語普及協会	伊藤寛了、石上和敬、岩瀬香奈子、小門謙、名取昭子、関口明子、小瀧雅子、小形真佐子、樋口博、戸田佐和(陪席)	1.取組1「日本語支援事業」、実施内容の検討 2.取組1「日本語支援事業」参加者募集につき検討
2	平成30年11月12日(月) 18:30~21:30	3時間	公益社団法人 国際日本語普及協会	伊藤寛了、石上和敬、岩瀬香奈子、小門謙、名取昭子、関口明子、小瀧雅子、小形真佐子、樋口博、戸田佐和(陪席)	1.取組1「日本語支援事業」、取組2「支援者研修事業」実施内容検討 2.取組2「支援者研修事業」参加者募集につき検討

3	平成31年3月15日(金) 18:30-21:30	3時間	公益社団法人 国際日本語普及協会	伊藤寛了、岩瀬香奈子、関口明子、小瀧雅子、小形真佐子、樋口博	1.今年度実施事業につき検証 2.来年度計画中の文化庁事業について 3.来年度以降の日本語支援事業継続につき検討
---	------------------------------	-----	---------------------	--------------------------------	--

(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	日本語支援事業においては、公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部および難民支援関係団体と連携することにより、難民コミュニティへの本事業の周知、広報を図った。更に港区役所と港区国際交流協会の協力を得て地域在住の定住外国人への広報活動を行った。また今年度も引き続き弊会に隣接する浄土真宗本願寺派光明寺に会場提供等協力を得た。支援者研修事業においては、港区役所および港区国際交流協会の協力を得て地域の支援団体、個人への周知・広報活動を行った。更に難民支援関係団体等を通じて支援者への周知を図った。
------	---

(3)中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	下記中核メンバーが中心となって事業を推進した。 事業責任者：小瀧雅子、取組1・3実施責任者：樋口博、取組2実施責任者：小形真佐子 事業責任者は、公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部および難民コミュニティ等の協力を仰ぎ、「日本語学習支援事業」の広報活動を行い参加者を募った。また、港区役所、港区国際交流協会や難民支援関係諸機関等の協力を仰ぎながら、都内および近郊のボランティア団体に「支援者研修事業」への参加を呼び掛けた。 取組1、2、3実施責任者は、事業責任者と協力しながら「日本語学習支援事業」および「支援者研修事業」を中心となって実施した。両事業実施に当たっては、運営委員会の場において参加者の募集、両事業の運営、日本語支援のあり方等について協議、両研修事業の担当講師を加えた会議等の場においても検討を加えつつ事業を推進した。本事業実施後には、両事業担当講師との会議、運営委員会の場で成果、課題を検証、今後の事業継続計画につき協議した。
----------	---

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援事業】										
目的・目標	地域在住の定住者と多文化共生社会の実現へ向けて共に進んでいくために、定住者が日本の文化や社会に関する知識を深めながら、日本の生活に必要な行為を日本語を使ってできるようにすることを目的とする。									
内容の詳細	定住者の生活の質向上、日本文化や社会に関する理解促進に結びつく日本語教室を平成25、26、27、28、29年度に引き続き実施した。 平成30年度は、昨年度までの継続学習者に加え、新たな学習者を募っての開催し、レベル別2クラス編成で実施した。 教室では、学習者の生活場面で必要となる日本語および背景知識についての学習を中心に進めた。併せて、学習者の興味、希望を勘案しつつ日本の社会事情、慣習、伝統文化等につき理解を深めるための内容を適宜盛り込みながら学習を進めた。 上記の学習を中心に、基本的には学習者のコミュニケーション能力向上に焦点を当てたが、文法に焦点を当てた学習、かな・漢字学習や文章の読み書き能力をつけるための練習も適宜取り入れた。									
実施期間	平成30年5月10日～平成31年2月28日				授業時間・コマ数		1回2時間×2クラス×40回＝160時間			
対象者	難民及びその家族、人道的配慮により在留を認められた者をはじめとした定住者				参加者		総数26人 (受講者15人、指導者・支援者等11人)			
カリキュラム活用	・カリキュラム構築の際、「生活上の行為の事例」および「事例に対応する学習項目の要素」を活用した。 ・学習者のニーズ把握に「生活上の行為の事例」の多言語版を利用した。 ・教材作成の際、必要に応じて「教材例集」を参照した。									
使用した教材・リソース	にほんごえてん、はじめましてにほん、本事業での既存作成教材等									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
				1						
	ミャンマー(11人)、イエメン(2人)、エチオピア(1人)									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年5月10日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	自己紹介(中級/初級) 自己紹介文作成(中級) かな(初級)	お互いの名前を覚える・自己紹介 フロンディ「ことばことばことば」 グループ毎に読み書き練習		小瀧雅子 宮下しのぶ	遠藤久美子(指導補助)	
2	平成30年5月17日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	9	環境①(中級) 一日の生活①(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	ゴミの分別(中級) カレンダー(初級) グループ毎に読み書き練習		樋口博 小形真佐子	中村桂子(指導補助)	
3	平成30年5月24日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	10	環境②(中級) 一日の生活②(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	リサイクル(中級) 動詞・カレンダー(初級) グループ毎に読み書き練習		小形真佐子 馬場正子	柴山智帆(指導補助)	
4	平成30年5月31日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	10	環境③(中級) 一日の生活③(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	温暖化・二酸化炭素(中級) 時間・動詞・カレンダー(初級) グループ毎に読み書き練習		宮下しのぶ 小瀧雅子	山本さやか(指導補助)	
5	平成30年6月7日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	日本の社会事情①(中級) 一日の生活④(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	ゴミ問題・環境汚染(中級) 時間・動詞・カレンダー(初級) グループ毎に読み書き練習		新野佳子 井上紀代	遠藤久美子(指導補助)	
6	平成30年6月14日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	自国について話す①(中級) 一日の生活⑤(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	日本と自国の季節(中級) 動詞・形を使って話す(初級) グループ毎に読み書き練習		中村桂子 柴山智帆	宮下しのぶ(指導補助)	
7	平成30年6月21日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	9	日本の社会事情②(中級) 一日の生活⑥(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	地震(中級) 形容詞を使って話す①(初級) グループ毎に読み書き練習		馬場正子 遠藤久美子	山本さやか(指導補助)	
8	平成30年6月28日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	9	自国について話す②(中級) 一日の生活⑦(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	日本と自国の行事(中級) 形容詞を使って話す②(初級) グループ毎に読み書き練習		井上紀代 中村桂子	小形真佐子(指導補助)	
9	平成30年7月5日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	日本の社会事情③(中級) 一日の生活⑧(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	最近のニュース・スマホ(中級) 形容詞を使って話す③(初級) グループ毎に読み書き練習		山本さやか 新野佳子	柴山智帆(指導補助)	
10	平成30年7月12日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	自国について話す③(中級) 一日の生活⑨(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	日本と自国の花・木(中級) 総まとめ①(初級) グループ毎に読み書き練習		遠藤久美子 樋口博	新野佳子(指導補助)	
11	平成30年7月19日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	9	日本の社会事情④(中級) 一日の生活⑩(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	豪雨・災害(中級) 総まとめ②(初級) グループ毎に読み書き練習		柴山智帆 山本さやか	樋口博(指導補助)	
12	平成30年7月26日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	日本の文化・風習(中級) 一日の生活⑪(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	日本の夏祭り(中級) 総まとめ③(初級) グループ毎に読み書き練習		樋口博 宮下しのぶ	井上紀代(指導補助)	
13	平成30年8月2日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	戸外学習(中級/初級)	築地本願寺で開催の納涼盆踊りを体験し、 仏教とお盆のつながりを体感する		宮下しのぶ 小形真佐子	馬場正子(指導補助) 中村桂子(指導補助)	
14	平成30年8月9日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	自国について話す④(中級) 戸外学習振り返り(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	日本と自国の動物(中級) 動詞・形容詞を使って話す(初級) グループ毎に読み書き練習		遠藤久美子 馬場正子	小瀧雅子(指導補助)	
15	平成30年8月23日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	9	日本の社会事情⑤(中級) 夏場に多い病気(初級1) 休日の生活(初級2) 漢字(中級)、かな(初級)	プラスチックゴミ(中級) 熱中症と食中毒(初級1) 頻度の副詞を使って話す(初級2) グループ毎に読み書き練習		宮下しのぶ 遠藤久美子	中村桂子(指導補助)	

16	平成30年8月30日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	9	目国について話す⑤(中級) 台風とハザードマップ(初級1) 夏場に多い病気(初級2) 漢字(中級)、かな(初級)	日本と自国の料理(中級) 日本で発生する災害の表現と知識(初級1) 熱中症と食中毒(初級2) グループ毎に読み書き練習	新野佳子 井上紀代	宮下しのぶ(指導補助)
17	平成30年9月6日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	食の安全(中級) 地震(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	賞味期限・消費期限と食物アレルギー(中級) 防災:地震への備え(初級) グループ毎に読み書き練習	中村桂子 柴山智帆	樋口博(指導補助)
18	平成30年9月13日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	生活の安全(中級) 家族(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	身近で起こる犯罪と防犯(中級) 家族について聞く・話す(初級) グループ毎に読み書き練習	馬場正子 小瀧雅子	新野佳子(指導補助)
19	平成30年9月20日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	紹介したい人①(中級) 季節(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	人物紹介の語彙・表現(中級) 日本と自国の季節(初級) グループ毎に読み書き練習	井上紀代 中村桂子	小形真佐子(指導補助)
20	平成30年9月27日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	紹介したい人②(中級) 身体(初級1) 台風とハザードマップ(初級2) 漢字(中級)、かな(初級)	自分が紹介したい身近な人について話す(中級) 身体名称と体調不良の表現(初級) 日本で発生する災害の表現と知識(初級2) グループ毎に読み書き練習	山本さやか 新野佳子	中村桂子(指導補助)
21	平成30年10月4日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	紹介したいもの①(中級) 病気①(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	紹介したいものに関わる語彙・表現(中級) 身体名称と病気の表現(初級) グループ毎に読み書き練習	小形真佐子 樋口博	井上紀代(指導補助)
22	平成30年10月11日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	5	紹介したいもの②(中級) 病気②(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	紹介したいものについて話す(中級) 自らに関する病気表現(初級) グループ毎に読み書き練習	柴山智帆 山本さやか	小瀧雅子(指導補助)
23	平成30年10月18日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	紹介したい所①(中級) 病院①(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	紹介したい所に関わる語彙・表現(中級) 病気・病院の語彙と表現(初級) グループ毎に読み書き練習	樋口博 柴山智帆	馬場正子(指導補助)
24	平成30年10月25日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	紹介したい所②(中級) 病院②(初級1) 身体(初級2) 漢字(中級)、かな(初級)	紹介したい所について話す(中級) 病状の言い方・診療科(初級1) 身体名称と体調不良の表現(初級2) グループ毎に読み書き練習	山本さやか 小形真佐子	新野佳子(指導補助)
25	平成30年11月1日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	日本の社会事情⑥(中級) 街①(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	バーチャルリアリティ(中級) 電車と駅構内の語彙(初級) グループ毎に読み書き練習	小形真佐子 馬場正子	山本さやか(指導補助)
26	平成30年11月8日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	日本の社会事情⑦(中級) 街②(初級1) 地震(初級2) 漢字(中級)、かな(初級)	日本で働く(中級) 郵便局、銀行、宅配便(初級1) 防災・地震への備え(初級2) グループ毎に読み書き練習	宮下しのぶ 井上紀代	小形真佐子(指導補助)
27	平成30年11月15日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	5	日本の物語(中級) 街③(初級2) 季節(初級2) 漢字(中級)、かな(初級)	「注文の多い料理店」を読み感想等話し(中級) 公共施設(初級) 自国と日本の季節(初級2) グループ毎に読み書き練習	新野佳子 中村桂子	樋口博(指導補助)
28	平成30年11月22日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	戸外学習準備(中級) 街④(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	日本の秋と紅葉(中級) 街で見る・利用するものと場所(初級) グループ毎に読み書き練習	遠藤久美子 宮下しのぶ	井上紀代(指導補助)
29	平成30年11月29日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	戸外学習(中級/初級)	日本庭園を散策して紅葉を鑑賞し、 茶屋で日本文化を体験する	馬場正子 小瀧雅子	柴山智帆(指導補助)
30	平成30年12月6日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	俳句①(中級) 街⑤(初級1) 家族(初級2) 漢字(中級)、かな(初級)	俳句の特徴、決まりごと(中級) 日常利用する交通手段(初級1) 家族について聞く・話す(初級2) グループ毎に読み書き練習	井上紀代 樋口博	宮下しのぶ(指導補助)
31	平成30年12月13日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	俳句②(中級) 街⑥(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	俳句づくり(中級) 街で見かける店(初級) グループ毎に読み書き練習	小瀧雅子 新野佳子	馬場正子(指導補助)
32	平成30年12月20日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	川柳(中級) 街⑦(初級1) 病気(初級2) 漢字(中級)、かな(初級)	俳句と川柳の違い(中級) 店の利用(初級1) 病気、症状に関わる語彙・表現(初級2) グループ毎に読み書き練習	中村桂子 遠藤久美子	小瀧雅子(指導補助)
33	平成31年1月10日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	紹介したい料理①(中級) 紹介したい人①(初級) 文字学習(中級/初級)	紹介したい料理につき会話(中級) 人物紹介に関わる語彙・表現(初級) グループ毎に読み書き練習	柴山智帆 山本さやか	遠藤久美子(指導補助)
34	平成31年1月17日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	紹介したい料理②(中級) 紹介したい食べ物(初級) 文字学習(中級/初級)	紹介したい料理・食べ物につき会話・作文(中級) 紹介したい食べ物に関わる語彙・表現(初級) グループ毎に読み書き練習	山本さやか 柴山智帆	馬場正子(指導補助)
35	平成31年1月24日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	紹介したいこと①(中級) 紹介したい所(初級) 文字学習(中級/初級)	紹介したいことについて会話(中級) 紹介したい所につき会話(初級) グループ毎に読み書き練習	樋口博 小形真佐子	宮下しのぶ(指導補助)
36	平成31年1月31日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	紹介したいこと②(中級) 紹介したいこと・趣味(初級) 文字学習(中級/初級)	紹介したいことについて会話・作文(中級) 好きなことについて会話(初級) グループ毎に読み書き練習	中村桂子 馬場正子	山本さやか(指導補助)
37	平成31年2月7日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	支援者と対話(中級/初級)	発表会で披露する歌と群読の練習 発表会原稿作成に向けて支援者と対話	小瀧雅子 井上紀代	柴山智帆(指導補助)
38	平成31年2月14日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	発表会原稿作成(中/初級) 招待状作成(中級)	発表会で披露する歌と群読の練習 発表会原稿の準備と作成	小形真佐子 遠藤久美子	樋口博(指導補助)
39	平成31年2月21日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	発表会原稿作成(中/初級) 発表会への招待(中級)	発表会で披露する歌と群読の練習 発表会原稿の準備と作成 招待状を渡ししながら人を招待する	新野佳子 小瀧雅子	遠藤久美子(指導補助)
40	平成31年2月28日(木) 18:30~20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	学習発表会	発表会流れに沿って予定演習、台詞等練習 お世話になった方を招いて学習発表会	馬場正子 樋口博	新野佳子(指導補助)

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第35回 平成31年1月24日】

1. 挨拶、本日の日付・曜日
2. 詩「ゆきがふる」群読に向けてスムーズにリズムカルに言えるように練習
3. 2グループに分かれて学習
 - ①初級グループ N5レベル基礎漢字の読み書き練習
前回復習として紹介したい食べ物につき会話後、今まで行った所の中でみんなに紹介したい場所につき会話
 - ②中級グループ 講師作成の「紹介したいこと」を読み、会話を進めながら便利な表現、語彙の学習
来週の作文作成に向け、各自の紹介したいことにつき会話



○取組事例②

【第40回 平成31年2月28日】学習発表会

1. はじめのことは:学習者
2. スピーチ発表①:学習者4名がそれぞれのテーマで発表。各発表後に参観者との質疑応答
3. 群読「ひとつのことば」(北原白秋)
4. スピーチ発表②:学習者4名がそれぞれのテーマで発表。各発表後に参観者との質疑応答
5. 歌「BELIEVE」
5. 終りのことは:学習者
6. 精勤賞授与:皆勤2名と精勤の3名に賞状と賞品、参加者全員に参加賞授与
7. 懇親会:学習者と参加者歓談



(2) 目標の達成状況・成果

最終日参加者8名にアンケートを実施した結果、日本語が「上手になったと思う」(4名)、「まあまあ上手になったと思う」(4名)との結果だった。日本での生活ができるようになったかとの問に対しては「できるようになった」(5名)「少しできるようになった」(3名)と答えている。勉強会満足度は「満足している」(7名)、「まあまあ満足している」(1名)との結果で、全員が引き続き本教室での学習継続を希望している。
今年度初めて参加した学習者は、日本社会に対する理解を深めつつ「生活者としての外国人」として必要な行為を日本語で学習できており、数年間継続している学習者も日本社会に対する理解が一層深まったと述べている。以上のことから、本年度立てた初期の目標は概ね達成できたと考える。

(3) 今後の改善点について

アンケートによると、文法や文字といった言語項目の学習を望んでいる人が多数いるので、来年度は生活日本語に比重を置きながらも、文法や文字についても理解が深まるプログラムを考えていきたいと考える。
本教室では、コミュニケーション力が向上してきている継続参加の学習者が多数いる一方、毎年コミュニケーション力がほとんどない学習者の途中参加を受け入れざるを得ないのが実情である。参加者間の日本語力レベル差、レベル別グループの人数の偏りは今後も避けられないと考えられるが、コミュニケーション力が高くない新たな参加者への対応、グループ合同学習の時間、内容については引き続き検討が必要と考える。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者に対する日本語教育への理解を促進するための支援者研修事業】

目的・目標	日本で暮らす難民とその家族、及び人道的見地から定住を認められている者への日本語支援を通じて、難民への理解を深めてもらい、日本における難民の理解者の輪を広げること目標にする。									
内容の詳細	受講生は関東近県から難民支援及び生活者としての外国人支援に感心のある方が集まった。難民の方が講師だった第1回には自治体等の関係者も数名受講された。10回30時間の研修を通じて、「難民への日本語教育」について、その基本的な考え方、方法、教材等について、当協会が難民教育を長年実践してきた知見を共有し、学びあった。前半は、当事者を講師に迎え、難民の置かれた現状についての理解を深めるとともに外国人にとって日本語のどこが難しいかを学んだ。また、外国語として日本語を客観的にとらえる目を養い、日本語支援をするにあたって最低限知っておきたい日本語の構造などを学習した。実習に向けては、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の考え方を基に、コミュニケーション重視で相互理解のための地域日本語支援の方法を考えた。生活日本語に適した教材や作成のノウハウ、日本の文化・習慣などの支援の方法についても学んだ。後半は、実践としてshow&tellを行い、相手の反応を感じながら人前で話す体験をし、自ら多くの気づきが生まれる機会を作った。その後、講師のサポートを得ながら実際に難民支援をする実習を行った。学習者は滞在年数も異なり、生活環境や背景も様々であるが、各々担当した学習者から話を引き出し、日本語で自分を表現できるように導く作業は、受講生にとって、それまでの研修で学んだことを実地に生かすことができる有意義な時間となった。学習者の言いたいことを最大限引き出すためにはどうすればよいか各自が考え、待つことの大切さなどに気づくなど学びが多かった。研修後に行われた学習発表会には殆どの受講生が出席し、学習者の成果を見届け、充実した交流の時間を持つことができた。									
実施期間	平成30年 12月 6日～平成 31年 2月 21日				授業時間・コマ数		1回 3時間 × 10 回 = 30時間			
対象者	港区及び関東近県の主に難民に対する日本語支援に関心のある方				参加者		総数 23人 (受講者 13 人、指導者・支援者等 10 人)			
カリキュラム案活用	・研修において、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の考え方を学ぶために、カリキュラム案、ガイドブックを活用した。 ・日本語学習者のニーズ把握のために「生活上の行為の事例」を活用した。 ・「生活者のとしての外国人」に対する日本語能力評価の基本的な考え方を学ぶ際に「日本語能力評価について」を活用した。									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
										13人
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年12月6日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	10	基礎1 日本語支援の第1歩	難民当事者の生の声を聞き、難民の状況や日本語支援の必要性について学ぶ。難民当事者(講師)の話①難民として生きる②日本語のここが難しい③質疑応答		ハウ ルン	小瀧雅子	
2	平成30年12月13日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	5	基礎2 日本語ってどんなことば一形(文法)①概観	生活者としての日本語教育での文法の扱い方、そして学習者の誤用はどこから生じるか、どこまで許容されるかなど、日本語の特徴と絡めて紹介し、検討する。		山本さやか	なし	
3	平成30年12月20日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	4	基礎3 日本語ってどんなことば一音・文字	普段何気なく使っている日本語の音や文字について見直してみることで、日本語学習者が何に躓いていくのかを理解する。		宮下しのぶ	なし	
4	平成31年1月10日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	8	基礎4 日本語ってどんなことば一形(文法)②名詞文・形容詞文	日本語教育における文法、特に名詞文・形容詞文について理解を深め、支援の方法を考える。		小形真佐子	なし	
5	平成31年1月17日(木) 17:30～20:31	3	(公社)国際日本語普及協会	7	基礎5 日本語ってどんなことば一形(文法)③動詞文	日本語教育における文法、特に動詞文について理解を深め、支援の方法を考える。		井上紀代	なし	
6	平成31年1月24日(木) 17:30～20:32	3	(公社)国際日本語普及協会	6	基礎6 わかりやすく話そうー相手に伝わる話し方	「わかりやすい日本語/やさしい日本語」がどのようなものかを知ることにより、外国人に伝わりやすい話し方を学ぶ。わかりやすい話し方ミニワークショップを行う。		新野佳子	なし	
7	平成31年1月31日(木) 17:30～20:33	3	(公社)国際日本語普及協会	6	基礎7 「体験行動型」の教室活動①	「生活者としての外国人に対する日本語教育のカリキュラム案」の概要を知り、幾つか教材を紹介することによって体験行動型の教室活動への理解を深める。		新野佳子	なし	
8	平成31年2月7日(木) 17:30～20:34	3	(公社)国際日本語普及協会及び光明寺	8	実践1 「体験行動型」の教室活動②	「生活者としての外国人に対する日本語教育のカリキュラム案」を実践の場で生かす。実践研修第1回目として、学習者のスピーチ原稿の支援を通し、教室活動への理解を深める。活動の体験に先立ち、作文の支援のポイントを考え、支援方法を学ぶ。		樋口博	なし	
9	平成31年2月14日(木) 17:30～20:35	3	(公社)国際日本語普及協会及び光明寺	8	実践2 「体験行動型」の教室活動③	学習者と対話をしながら話を引き出す支援で必要なこと、注意すべき点等を考える。実際の支援を振り返り、気が付いたこと、良かったこと、難しかったこと、反省点、改善点を検討する。		小瀧雅子	なし	
10	平成31年2月21日(木) 17:30～20:36	3	(公社)国際日本語普及協会及び光明寺	7	実践3 「体験行動型」の教室活動④	これまでの基礎、実践研修の総まとめとして、ほぼマンツーマンで発表会に向けてのスピーチ原稿作成、発表練習などの支援活動を体験する。		中村桂子	なし	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第8回2019年2月7日】

- ①実践研修一回目として、まずこれから実践に加わる生活日本語教室について、活動の全体像を学んだ。
- ②対話型支援の教材例を見ながら活動の進め方、話題の広げ方を考えた。
- ③日本語教室に移り、各自準備してきた内容で学習者にshow&tellを披露した。
- ④学習発表会に向けて、学習者に一対一で寄り添いながら、支援を実践した。



○取組事例②

【第9回2019年2月14日】

- ①前回学習者の前で行ったshow&tellについて振り返り、他の受講者や講師からフィードバックをもらった。
- ②前回の学習者への対話による支援について、よくできたこと、難しかったこと、改善点を話し合った。
- ③スピーチ原稿としてまとめた内容を書く支援について、ポイント考えた。
- ④日本語教室に移動し、引き続き、講師の指導のもと、群読や歌の合同学習を体験し、支援の実践を行った。



(2) 目標の達成状況・成果

受講生は、地域の教室で日本語支援を行っている方、地域での活動をこれから始めようとしている方、大学のゼミで難民への日本語教育をテーマに研究している方、外国人へのホスピタリティを仕事にしている方、また教職課程を取っている大学生など、忙しい事情もある中、最後まで熱心に通われた。第1回はさらに、自治体の多文化共生に関わる方や大学で教鞭をとっている方なども参加、日本で暮らす難民への関心の高さが窺えた。アンケートでも、「難民当事者の方の体験、日本語学習の経験を語っていただいた機会はとても貴重だった」というコメントがあった。また、「日本語を教える」ということは、テキストに沿って教えることではなく、その人が必要とする日本語から教えることがとても大切であることを知った」、「教材の作り方にもヒントやアイデアをもらった」というコメントもいただいた。また日本語教室での実習は、受講生にとって非常に貴重な経験となったようだ。支援の実践と振り返りを行いながら、次の支援に生かすという一連の流れは、受講生自身が自分を振り返り整理する過程を伴い、役立つ実践研修となった。コメントでは、「学んだことをこれからの外国人への支援に役立てていきたい」、「より良い日本人と外国人が理解しあえる社会ができるよう貢献したい」、という前向きな感想を多くいただいた。この研修が、今後の活動にさまざま活かされていくことを願っている。

(3) 今後の改善点について

季節が冬の寒い時期に当たり、昨年までは、実践研修実施時に日本語教室の学習者がどの位の人数来ているか、ということも懸案事項であったが、今回は日本語教室の学習者に欠席が少なく、支援者研修の受講生とペアを組み、ほぼ一対一の関係で実習をスムーズに行うことができた。また、協力的な学習者が多く、初めて実習する受講生にとってもよい環境であったと思う。今後、ゼロ初級の入門レベルの学習者がいるなどレベルに大きな差があったり、参加人数が時によってばらつきがあったりなど、様々な場合も起こるであろう。実践研修がどのような場合でも実り多い研修となるよう、研修の内容を考えていきたいと思う。研修後に受講生がそれぞれの場で、学んだことをどのように生かして支援活動に結びつけることができているか、少しでも支援のすそ野が広がっていくよう、考えていきたいと思う。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者のための日本語学習用教材】

目的・目標	難民及びその家族等定住者を対象とした日本語学習支援教材を作成し、定住者の生活の安定、質の向上に寄与し得る教材を広く一般に公開することを目的とする。		
内容の詳細	上記の「日本語支援事業」実施に合わせ、40回80時間分の日本語学習支援用教材を作成した。 教材の内容としては、「生活日本語」をテーマとして過去作成した教材を使用後のフィードバックを基に改定した教材、新たな「生活日本語」をテーマとして作成した教材、主に継続学習者を対象として実施した日本社会を理解するためのニュース、伝統行事等を題材とした教材等を盛り込んだ。		
実施期間	平成30年5月～平成31年2月	作成教材の 想定授業時間	1回2時間×40回＝80時間
対象者	難民及びその家族、人道的配慮により在留を認められた者をはじめとした定住者	教材の頁数	106 ページ
カリキュラム案活用	・カリキュラム構築の際、「生活上の行為の事例」および「事例に対応する学習項目の要素」を活用した。 ・学習者のニーズ把握に「生活上の行為の事例」の多言語版を利用した。 ・教材作成の際、必要に応じて「教材例集」を参照した。		
事業終了後の教材活用	港区国際交流協会ははじめ本事業で連携、ご協力いただいた難民支援関連団体等に希望に応じて配布、定住者支援に活用していただく。 文化庁のホームページ上での公開を想定、定住者支援を行っている団体、支援者に広く活用していただく。		
成果物のリンク先			



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

難民問題が世界を揺るがしている現在、日本にとっても難民を今後どう受け入れるかは喫緊の課題である。難民が日本社会で自立し安全で健康的な暮らしを成立していくために、日本語支援がどうあるべきかという問題は、いまだ社会で十分に議論され共有されているとはいえない。AJALTの日本語講師はインドシナ難民受け入れの時代から今日まで約37年にわたって難民事業本部の運営の下、難民への日本語教育を実践し、また地域や企業においても教育・支援を行うなど幅広く活動してきた。難民への日本語教育は今日、地域で求められている「生活者としての外国人」のための日本語教育そのものといえるが、加えて実践にあたっては難民という特殊性に対する理解も必要である。また、多くの地域の教室がそうであるように、多文化、多言語、レベル差などに対応した教室運営が求められる。さらに今後の難民をはじめとする定住外国人支援の方向性としては、難民たち自身の自助の力を下支えし、架け橋となる人材を育てていくことも重要な課題である。本事業では「難民への日本語教育・支援」について、その基本的な考え方、方法、教材等について、支援者の理解の輪を拡げ、当事者支援者を含め層を厚くしていくことを第一の目的とするとともに、学習機会と場を切望する多くの難民とその家族、人道的配慮により在留を認められた人々に向けた日本語教室を昨年に引き続き実施する。この日本語教室をモデル教室として運営し、実践の場に支援者が参加する機会を提供する。モデル教室が学習者、支援者双方にとって良い学びと交流の場となり、結果として①学習者にとっては日本語力の向上、社会参加の促進、②支援者にとっては難民への日本語教育への理解促進、自らの実践に向けた動機づけとなることを目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

「日本語学習支援事業」においては、「生活者としての外国人」が日本の文化や社会に関する知識を深めつつ、日本での生活の基盤を形成する上で必要な行為を日本語を使ってできるようにするという初期の目標は概ね達成できたと思う。「支援者研修事業」では、日本に定住している難民についての理解を深めていただき、更には相互理解のための地域日本語支援の方法、生活日本語に適した教材や作成のノウハウ等を学びつつ、支援活動を始めるきっかけとしていただくという目標を概ね達成できたと思う。「学習教材の作成事業」で蓄積してきた教材等を活かしつつ、今後も引き続き日本における難民の理解者、支援者の輪を広げていきたいと考える。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

本年度の事業においても「支援者研修事業」でカリキュラム案「生活上の行為」に挙げられた項目を詳細に見ていくことにより「生活日本語」の具体的なイメージをつかんでいただくのに役立った。いつもあげられることではあるが、どの程度言えれば(できれば)達成できたと考えてよいかの判断基準が難しいとの意見が出た。

「日本語学習支援事業」では、教材例集の病院、病気の場面や災害に関する教材等を参考にした。ガイドブックの活動方法例では、タスク(実体験、インタビュー、ロールプレイ)、エクササイズ(ショーアンドテル、スキミング、スキヤニング)等を教室活動実施の際参考にした。

(4) 地域との関係者との連携による効果、成果 等

本事業を6年間継続する中で、事業の広報や実施内容検討において港区役所および港区国際交流協会から多大な協力を得てきた。公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部からは、難民コミュニティや関係者への広報等においていろいろな協力を得た。弊会に隣接する浄土真宗本願寺派光明寺には「日本語学習支援事業」の会場提供において協力をいただき、住職からは地域住民のコミュニケーション促進活動を推進する立場からも助言、協力をいただくことができた。更に支援団体、ボランティア教室関係者とも協力関係を築きながら本事業を進めてきた。今後も難民に焦点を当てた様々な事業を展開していく中で上記の団体、機関や多数の関係者との連携を更に深めつつ引き続き支援事業を推進していきたいと考える。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

「日本語学習支援事業」では、公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部を通じて難民コミュニティやRHQ支援センター修了者に対して広報活動を行った。また、港区役所および港区国際交流協会の協力を得て地域在住の定住外国人への広報活動を行った。その他前年度参加者からの口コミによる周知、難民が多く集まる飲食店や食材店に案内を配布して事業の周知を図った。

「支援者研修事業」では、港区役所および港区国際交流協会の協力を得て地域の支援団体、個人への周知・広報活動を行った。また、難民支援関係団体等を通じて支援者への周知を図るとともに参加者の募集を行った。

本事業の成果については、上記団体等を通じて関係者への発信を継続するとともに、ウェブサイトや弊会が実施する研修会等の機会を通じて引き続き情報を発信していきたいと考える。

(6) 改善点、今後の課題について

『「生活者としての外国人」のための日本語教育事業』は本年度をもって終了するが、これまで蓄積してきたノウハウや教材、築きあげてきた関係団体との協力体制を来年度以降計画している「難民のための日本語教育人材養成・研修カリキュラム開発事業」において活かしていきたいと考える。「日本語学習支援事業」については、数年間欠かさず参加し続けている学習者も多数おり、学習を継続したいとの希望が多くの学習者から出ていることから、弊会の自主事業として来年度以降も継続実施していく予定である。今後も安定して事業を継続していくためには、引き続き関係団体との連携が必須と考える。

(7) その他参考資料

参考資料1 第1、2、3回運営委員会議事録

参考資料2 日本語学習支援事業 授業報告 ※受講者氏名の記載があるため、HPへの掲載はしていません

参考資料3 日本語学習支援事業 出席簿 ※受講者氏名の記載があるため、HPへの掲載はしていません

参考資料4 日本語学習支援事業 ご案内(日本語、英語、ミャンマー語版)

参考資料5 日本語学習支援事業 アンケート

参考資料6 日本語学習支援事業 教材 ※別途掲載

参考資料7 支援者研修事業 授業報告 ※受講者氏名の記載があるため、HPへの掲載はしていません

参考資料8 支援者研修事業 出席簿 ※受講者氏名の記載があるため、HPへの掲載はしていません

参考資料9 支援者研修事業 ご案内

参考資料10 支援者研修事業 アンケート